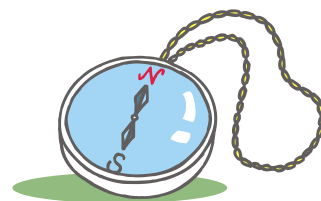


羅 針 盤

第 **33** 号 令和5年（2023年）2月6日（月）



◆ 「深い穴を掘るなら広く掘れ」

先週末の2月4日（土曜日）は、季節の指標である二十四節気（にじゅうしせっき）の一番目の節気である「立春（りっしゅん）」でした。「春が立つ」、つまりは、春の兆しが見え始める時期という意味で、暦の上ではすでに春が始まったというわけです。暖かな日が差す春に向けて、果物などの苗木を植え替えたりする季節でもあるようですが、直径が30cmで、深さが50cmの穴をスコップで掘ろうとしても、実はなかなか上手く掘ることができません。結論から言うと、直径が30cmでは、50cmの深さの穴は掘ることはできないそうです。「深い穴を掘るなら広く掘れ」という言葉があります。深い穴を掘るためには、それに応じた広さが必要であるということです。生徒の皆さんは、将来は必ず何らかの職業に就いているはずです。その時に、例えば専門的な技術を要する職に就いていたとしても、自分の専門的分野をさらに掘り下げていこうとするなら、専門とする分野以外の知識を得るためには幅広く興味を持って勉強をしなければ良いアイデアが浮かぶようなことは難しいことだと思います。「広く学ぶ」とは、社会状況や時代の流行、あるいは、教養や雑学といったことなども含めた知識のことです。皆さんが中学校、あるいは、高等学校の授業で学ぶことが正にそれにあたります。広く学べば学ぶほど、将来の皆さんの専門的な知識の奥行きが広がることに繋がり、それぞれの持つ夢の実現に向けて近づいていくことができるわけです。「深い穴を掘るなら広く掘れ」という言葉の意味をしっかりと理解して、目の前の授業や部活動に、全力で取り組み、有意義な学校生活を過ごしてほしいと思います。3年生の皆さんにとっては、いよいよ私立高校の入試が直前に迫ってきました。「体験や知識を土台としながらも、さらに踏み込んでいく力を持っているのが、人間の本質ということなのかもしれない。追い詰められたときに発揮される力は必ずあるはずです。」と、将棋界のレジェンドと呼ばれる羽生善治さんは言います。残された時間を有意義に、そして、最後まで決して諦めることなく、自分の持てる力を信じて、全力を出し切る努力を忘れずに、一人ひとりが自らの進路を自分自身の手で是非とも勝ち取ってほしいと思います。



◆ 「お茶を濁す」

適当にごまかすといった意味で使われることが多い「お茶を濁す」という言葉。ここで使われている「お茶」は緑茶のことではなく、抹茶のことを指しているそうです。茶道といった作法を大切にしなければならない場面で、お茶を点てる際に、その作法をきちんと知らないままで本格的なお茶を点てることは難しく、適当に真似事をしてお茶を濁らせてごまかしたことが言葉の由来となっているようです。現在でも、抹茶を点てて楽しむことは、見よう見まねでは難しいことであり、きちんと作法を学んで、習得することが必要です。その場しのぎのためにごまかしたり、都合よく取り繕うばかりでは、人としての成長は全く期待できないことだと思います。生徒の皆さんには、しっかりと学びを習得できる人であってほしいと願っています。

